

第2章 ヒヤリ地図

2.1 作成方法

本報告でいう危険事象は、表-1のように定義した。「ヒヤリ体験」は実際に道路上で「ヒヤリ」、「ハッ」とした体験であり、『いつ、どこで、どのようにヒヤリ体験をしたのか』を把握した。また合わせて「危険認識」についても収集し、これは『どこで、どのような状況になる可能性があり、どのように注意しているか』を把握した。

表-1 ヒヤリ体験と危険認識の内容

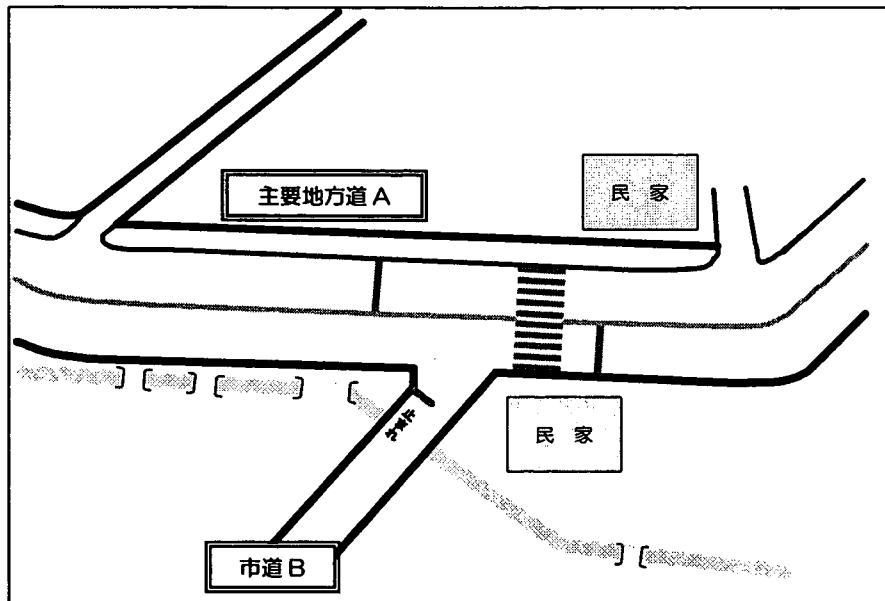
	具体的内容
ヒヤリ体験	交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験
危険認識	実際にヒヤリ体験したわけではないが、危険が感じられたり、そのために注意したりしている状況

具体的なヒヤリ地図作成にあたっては、対象者を高齢者（65歳以上）と非高齢者に区分し、2種類のヒヤリ地図を作成した。対象者は主につくば市に在住する方である。非高齢者を対象としたヒヤリ地図作成では、調査票を配布し、危険事象を地図上にマークするとともに、その内容を調査用紙に記入してもらうアンケート方式とした。調査票（資料-1参照）には、表-1の両危険事象をそれぞれ2、3の事例とともに例示して対象者の理解を促すとともに、調査用紙には、記入例を参考に危険事象の状況をなるべく時間を追って記入してもらうこととした。また、危険事象の状況をできるだけ精緻に把握できるように、対象者（危険事象回答者）および相手の動作、両者の位置関係、周囲の交通状況を合わせて記入してもらうようにした。

一方、高齢者を対象としたヒヤリ地図作成では、調査員が対象者に個別に聞き取りを行うヒアリング方式とした。ここでは、まず危険事象について説明し理解を促してから、対象者に道路地図を見せるとともに、危険事象の場所と状況について口述回答してもらった。状況のヒアリングに際しては、調査員が不確かな点や危険事象の原因について繰り返しヒアリングを重ね、その後調査員が危険事象の状況を時系列に沿ってまとめ、また最終的に対象者に内容を確認して1つの危険事象の回答とした。

アンケートやヒアリングで得られた情報に基づいてヒヤリ地図を作成した。ヒヤリ地図は広域図と詳細図の2種類作成した。広域図については、対象地域全域の地図上に、危険事象指摘箇所をプロットしたものであり、詳細図については、図-3のように、現地見取り図上に、危険事象指摘箇所と、危険事象の内容を記録したものである。詳細図の危険事象は、アンケートで得られた内容をそのまま用いるのではなく、当該箇所の地理的・地形的状況、道路・交通環境面の状況を理解した上で、調査担当者が危険事象を整理してまとめ直した。これは、アンケートの回答を見ただけでは、危険事象の根本的な要因が道路の管理に基づくものか、道路線形、植栽配置等を含めた道路幾何構造設計に基づくものかわかりづらくなっていること、また必ずしも時系列に沿って記述が進められておらず、記述が断片的で、危険事象に至った経過が読みとりにくいものがあったためである（アンケート回答例を図-4に、整理後の詳細地図を図-5に示す）。なお、地理的・

地形的状況等の理解に際しては、必要に応じて現地視察を行っている。また、回答で得られた内容を改変しないことに細心の注意を払った。



ヒヤリ体験	非高齢者
道路交通環境	カーブと交差点の近接

東から大きな右カーブを曲がっていた所、市道 B から車が出て来た。相手方がよく見えなかった。大きなカーブではあるが、横断歩道寸前まで先の状況が判りづらい。

ヒヤリ体験	非高齢者
道路交通環境	カーブによる視認性の妨害

主要地方道 A に南から来る市道 B が合流する T 字路。市道 B から主要地方道 A に東方向に右折する場合、右(主要地方道 A)からの車が見にくい。一般にスピードが出ている。

図-1 ヒヤリ地図詳細図

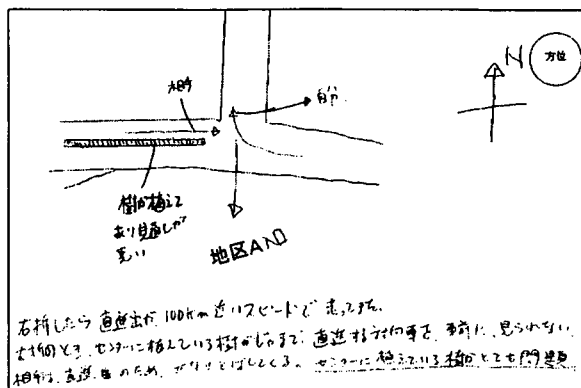


図-2 アンケート回答例



図-3 整理後のヒヤリ地図詳細図

2.2 危険事象指摘箇所の概要

調査対象人数と、調査で指摘された件数等は表-2 のとおりである。一人当たりの指摘件数は、高齢者の場合約 3.5 件であるのに対し、非高齢者の場合は約 2.0 件となった。

得られた危険事象と現場の道路・交通状況を照合し、その主な要因を推測しとりまとめた。結果を表-3 に示す。要因は大きく「道路・交通環境的要因」と「利用者側の人的要因」に区分し、さらに詳細な要因に区分した。高齢者の方がやや利用者要因の割合が高い結果となった。

表-2 回答者数・指摘件数

	非高齢者	高齢者
調査対象人数	123名	111名
ヒヤリ指摘件数	248件	389件
一人あたり指摘件数	2.0件	3.5件
ヒヤリ指摘箇所数	178箇所	321箇所
(うち複数名指摘箇所数)	41箇所	51箇所
高齢非高齢で重複する箇所数	53箇所	

表-3 危険事象の要因とその割合

大分類		道路・交通環境	利用者	その他 (詳細回答なし)	合計
詳細分類 (主なもの)		視認性の阻害 交差点とカーブの 位置関係 狭幅員 変形交差点 交差点と交差点の 近接 右折車線の未設置	安全不確認 交通安全意識の 欠如		
高齢者	件数	231	158	0	389
	割合	59.4%	40.6%	0.0%	100.0%
非高齢者	件数	185	52	11	248
	割合	74.6%	21.0%	4.4%	100.0%